

第6回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部

日 時 8月31日(月) 10:30~11:30

場 所 尼崎市役所北館4階 4-1会議室

1. 開会

座 長： 第6回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部会議を始める。

本日は人口ビジョンの素案と総合戦略の素案について議論して頂く。9月30日の総務消防委員会までに素案を確定し、10月1日からパブリックコメントを実施したいと考えている。

2. 【付議案件1】尼崎人口ビジョン(素案)について

事務局より資料1説明

座 長： 人口ビジョンにおける最大の論点は、本市の将来人口の目標をどのように設定するかであり、政策的な意図を込めた数字を示すということが大きなポイントだと考えている。人口の増減については出生率が重要な要素であるが、「無理に産めよ、増やせよ」ということではなく、市民の望む、結婚・出産の希望は実現していきたい。

また、人口ビジョンにおいて示された課題・問題意識を、どのように今後5年間の施策の方向性を示す総合戦略につなげていくかが重要である。

委 員： 人口ビジョンにおいて、本市に居住している市民(夜間人口)については言及されているが、昼間人口や交流人口についても考慮をすべきではないか。

また、東京への転出超過を抑える具体の施策というものは市の単独施策では難しく、関西圏全体として策を考えなければならない。

座 長： 現在、昼間人口比率は1.0を少し下回る程度であるが、本市においては、昼間人口比率を上げていく方がよいと考えるのか。

委 員： 尼崎市に住んでいて働く人を増やすことも、住んでいなくても働く場所を提供することも重要である。

委 員： 財政面から見るとどうなのか。

委員： 個人市民税も法人市民税も最終的には地方交付税において相殺され、歳入ベースでいくと一定になってしまうが、歳出を抑えるという意味では、若年層の定住・転入の促進は効果があるのでは。

働きに来ている人が住んでもいいという町を提供することが、人口を増やす意味で一定の効果があると思う。

座長： ワークライフバランスを保ちながらの共働きのスタイルを考える上では、職住が極端に離れておらず、通勤時間が短いことが重要であり、本市の交通の利便性の良さは、今後打ち出していけるポイントになると思っている。

総合戦略において、人の流れをどうつくるかという点は重要な視点であり、シティプロモーション推進指針においても、まずは尼崎の魅力を高めるとともにマイナスイメージを払拭し、そこから段階的に交流・活動・定住人口を増やすとしており、交流人口を重視するという事は盛り込まれている。

委員： かつて南部では製造業が中心だった時代には、人の流れがかなりあったと思われるが、その操業環境が悪くなっている。

座長： 産業部では昨年、人も誘致した企業に対する新しい補助金を打ち出したが、今後もそのような取り組みは必要である。

委員： 就業人口と従業人口の割合を見ていくと、なにか判ることがあるのではないかな。

委員： 尼崎には20万人の就業者が居住しており、そのうち10万人が市内で働いている。

地方創生の大きな流れは3大都市圏への人口集中を緩和させるとことであるため、工場立地法により企業の市外移転が進んだ時と同様の事が起こらないよう「地域に根差した事業所をつくる」、「周辺で働く人に住んでもらえるまちにする」といった考え方を持って社会減少を抑えていく必要がある。

座長： タウンミーティングなどでも、お金が無いという議論になると、必ず企業誘致をすればいいのではないかとの意見が出てくる。

中核企業を誘致する、そこで働く人を住みやすくする、尼崎に住んで働くことでライフスタイルを充実させたものにする、というサービスを私たちが支えていくということ、ストーリーとして見せていくことが重要。

委員： 地方からの20 - 24歳の転入が多いのは、働きに来ている人か。

事務局： 地方部から尼崎に来ている 20 - 24 歳の人が多い。地方創生は 3 大都市圏への人の集中を緩和するという議論であるので、地方創生が進むと地方から転入する人が少なくなるかもしれない。

委員： 昔は市内に社宅があったので、社宅を出てもそのまま定着して住んでくれた。今回の転出者のアンケートの結果に興味がある。下宿していた学生に尼崎はいい所と思わせたら、居住地選択の土俵にあがるのでは。単身者の入れ替わりは激しいが、人口の確保という観点からは、一定効果があるのではないか。御堂筋沿線では法人がマンションを買って社宅にするといった動きがあると聞いたことがある。そういったことを本市も取り組んでいってもよいのではないか。

座長： 住宅政策的には一戸建ての方がコミュニティとしては根付きやすい。また、駅前のマンション化は止められない。

事務局： データとしては尼崎の持ち家率は高いと言える。

委員： 定住人口対策においては、家を持てば人は定住するという話になりがちであるが、そこに違和感がある。他の都市圏ではどんな打ち出し方をしているのか。

委員： 今回の戦略素案では交流人口についても触れられている。人口ビジョンにおいても交流人口のことに触れておく必要があるのではないか。

座長： 人口ビジョンのまとめ部分である総合戦略に向けた視点においては、客観的な事象を記述したうえで、総合戦略につないでいこうとするもので、深く踏み込んだ記述ではないが、昼間人口については触れた方がよいと感じる。

事務局： 観光による賑わいは経済規模の拡大には繋がるが、自治体の経営という観点から行くと、働きに来てもらった方がよい。

座長： 働きに来る人を増やすという考え方はよい。

事務局： 若年者が入ってくるということについては、一度本市に接点のあった若者を連れてくることを考えたほうがよい。

座長： この年齢層は自分の意思で転入・転出する人と、会社の都合で転入、転出す

る人がいる。

座 長： 子育て世代の転出の理由についてだが、この度実施した市民アンケートでは、治安・マナーの悪さに回答が集中した。必ずしも学校教育のみではないという結果が現時点では出ている。

委 員： 人口密度の話も本日は一旦横に置かれている感があるが、本市の人口規模は30万人くらいでよいのではないかという考え方もある。

委 員： 住居の質を改善していくためには、老朽空き家住宅の対策をしていかないといけない。

座 長： そのような視点も踏まえ、土地利用のあり方を考えようとしているし、本市の特徴である高い人口密度についての議論も必要であると感じている。

「未来へつなぐプロジェクト」の中で、10年後も子供のいる世帯の人口構成バランスを維持するという目標が掲げられているが、総合戦略の策定に併せて、プロジェクトで掲げている指標についても整理しておきたいと考えている。

3. 【付議案件2】尼崎版総合戦略（素案）について

事務局より資料2～4説明

座 長： 総合戦略については各局に意見を頂きながら策定作業を進めている。前段の方向性の書きぶりは大幅にブラッシュアップが必要だと考えているが、何か意見があるか。

委 員： 6つの柱「⑥時代に応じた住環境の創出と立地の適正化」については、今回の総合戦略期間を5年とするならば、立地の適正化について今後5年で達成することが見込まれるものはあるのか。事業所をどうするとか、産業の立地適正化をどうするかという論点がこの戦略にはあまりないので、住環境なら住環境で絞った方が良いのではないか。

もう一つは子ども・子育て支援の充実が、従業者が安心して働くためには必要で、基本目標と6つの柱の対応関係は明確にしなければならない。

座 長： 3つの基本目標と、6つの柱の関係は一对一の対応ではなく、マトリックスで示す方がよいと考える。

事務局： 人口ビジョンを受けて、今後5年間に何をするのか、ということが求められている。立地適正化計画は20年先を見越してつくるものである。

座長： 経済に関しては市内居住者と就労人口の割合など、新たな指標を追加してはどうか。

委員： 社会移動が収束するという前提は、若者が入ってこないということなのか。単身者で、稼ぐだけで消費しないかもしれないが、そういう世帯が多数入ってくることも、違う意味で都市の活性化が図れるのではないか。

事務局： 単身者が来なくてもよいというわけではない。ファミリー世帯の転出超過を止めたいというのを一つの目標にしている。

座長： 確かに、現実のデータから見れば、転出超過世帯を止めると書けばよいのである。改めて思うに、私たちがファミリー世帯の定住・転入促進にこだわるのは、ファミリー層の転出要因に「治安やマナー」「環境」「教育」といった課題が凝縮しており、総体として尼崎のイメージを形づくるものであるからだと思う。プロジェクトで示していたように、担税力のある世代を受け入れなければならないという財政上の意識もある。とはいえ、単身者を排除するものではない。

座長： 基本的な検討の視座に書いてある、本市の独自性とはどこに相当しているのか。

事務局： 本市が総合戦略において掲げる6本の柱のうち、「②学校教育・社会教育と人材育成」や「⑤シビックプライドの醸成」などの考え方は、国の総合戦略ではあまり触れられておらず、本市独自の項目である。

委員： 課題は変わらず、大きな浮き沈みはないのかもしれない。ただ、将来の安定性を考えた時には、住環境の改善に資金を投入すべきか。

座長： 地方創生は3大都市圏への人口集中を抑えようということだが。

委員： 東京の一極集中が分散されれば人口減の抑制につながるかもしれないが、なかなか変わらないであろう。

座長： 全体的に課題に対する記載が多く、尼崎の良いところがあまり表現できてい

ない印象がある。もう少し尼崎の強みを押し出すことが必要かもしれない。

尼崎市の特長である、就労状況や、昼間人口についても追記していくこととする。

座 長： 本日の第6回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部は以上で終了とする。

以 上